

きべりはむし

第19巻 第1号

目 次

兵庫県のエンマムシ	高橋 寿郎	1
兵庫県のクチキムシ(1)	高橋 寿郎	11
尼崎西南部の昆虫(その4)	新家 勝	15
宝塚市西谷地区の昆虫数種について	森 和夫	20
但馬地域におけるミスジチョウの分布	近藤 伸一	24
但馬地域にオオムラサキの新産地について	近藤 伸一	25
ヒゲナガサシガメ・ベニモンマキバサシガメ 共に氷上郡山南町に産す	高橋 寿郎	26
ユリクビナガハムシの採集記録について	森 和夫	28
ユリクビナガハムシ三木市大村にても発見	高橋 寿郎	29
キベリハムシ氷上郡山南町五ヶ野で採集	高橋 寿郎	30
クロオビツツハムシ神戸市に産す	高橋 寿郎	31
県関係文献紹介		
会員異動		

兵庫昆虫同好会

1991年5月

兵庫県のエンマムシ

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 3)

高 橋 寿 郎

筆者はかつて“兵庫県のエンマムシ類”と題する報文を発表して兵庫県下から34種のこの類を記録した (Parnassius, No.29:1—14, 1983)。その時点以後日本のこの仲間は大いに研究が進展し久松定成氏の論文 (1984, 1985, 特に原色日本甲虫図鑑・IIでは日本産エンマムシ科の属の検索表とか若干の属, 種の検索表を示されると共に75種も原色で図説された)。更には大原昌宏氏の研究 (1986, 1989, 1990) などが発表され特に大原氏は全般のエンマムシ類の生活と形態、交尾行動のようなまとまった貴重な報文を発表になりこの仲間の日本産のものについて同定もや、わかり易くなったり面白いその生活がわかって来たりして大変この仲間が吾々の身近に来た様な気がする。新しい研究の結果学名なども前報のものを変えなくてはいけないものもあつたりするので今回再び県下産のこの類をまとめてみた。同定には慎重を期したが尚誤りがあるやも知れずそれ等について御指摘、御教示頂ければ幸である。

尚現在の日本産エンマムシ類 (エンマムシ上科) は1989年の「日本産昆虫総目録・I」には32属95種が出ているが大原氏の1990年の報文では日本産は34属100種となっている。結構多くいるグループのようである。学名は「日本産昆虫総目録・I」のものを用いた。

Superfamily Histeroidea エンマムシ上科

Family Syntelidae エンマムシモドキ科

1. *Syntelia histeroidea* Lewis, 1882 エンマムシモドキ

特異な形態をしているので一見してわかる。従来県下からは養父郡の鉢高原からのみ知られていたのであるが筆者は東 正雄氏から養父郡氷の山標高800mのツルウメモドキの朽ちた樹皮下から得た1頭の同定を依頼され本種であることがわかりその記録を発表した (1986)。

それ以外県下からは知られていない。この科のものは枯れ木、樹液などにみられ、樹幹に生息する小昆虫を捕食するが、まれに獣糞にもくると云われている。

産地*：養父郡鉢高原〔高橋 TA., 1975〕、氷の山〔高橋 TO., 1986〕。

Family Histeridae エンマムシ科

Subfamily Niponiinae ホソエンマムシ亜科**

1. *Niponius obtusiceps* Lewis, 1885 ツノブトホソエンマムシ

本種は前報では収録されていない。それ以後に採集出来たものである。キクイゾウムシ類の孔道で発見されると云うが筆者は樹皮下から採集した。

産地：神戸市烏原（1♂、21—VI—1984）。

2. *Niponius osorioceps* Lewis, 1885 ヒメホソエンマムシ

本種は前回報告した以外全く採集出来ていない。

産地：宍粟郡福知溪谷、赤西〔高橋 TO., 1983〕。水上郡〔山本, 1958〕。

Subfamily Abraeivae クロツブエンマムシ亜科

3. *Chetabraeus bonzicus* (Marseul, 1873) クロツブエンマムシ

産地：川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕。

Subfamily Sapriniinae ドウガネエンマムシ亜科

4. *Eopachylopus ripae* (Lewusp 1885) ツヤハマベエンマムシ

本種は県下から初めての記録になると思う。上翅はときに赤紋を装うと云うが今回採集されたものは無紋。上翅背条の発達が悪く、第4背条は基部に短線か点があるだけ、光沢があり、中、後脛節は強く拡大し裏面全体に頑丈な棘がある。蜂谷幸雄氏が的形の海浜で採集されたのがこの種に当ると思われる。

産地：姫路市の形 (lex., 6—IV—1989, Y. Hachitani leg.)。

* 各種に就いて前報で解説した種については今回新しく産地の追加があればデータを入れるがそれ以外は産地名だけ入れて簡単にするようにした。また記録の引用の所で高橋 TA. とあるのは高橋 匡、高橋 TO. とあるのは高橋寿郎の記録である。

** 前報では独立の科として取扱っていた。

5. *Gnathoncus nannetenis* (Marseul, 1862) オオマルマメエンマムシ

沢田和宏氏により三木市の養鶏場の鶏糞下、牛糞下そして畑の畦に捨てられた野菜クズの下から夫々採集されたことが報告されている。

産地：三木市下石野〔沢田, 1987〕。

6. *Gnathoncus rotundatus* (Kugelann, 1992) マルマメエンマムシ

前報以後新たな産地は知らないが沢田和宏氏によると(1987)本種は鶏糞から時々採集されるから養鶏場を精査すれば県内の新たな生息地が見つかるだろうと述べておられる。

産地：川西市笹部〔仲田, 1982〕。神戸市烏原〔高橋 TO., 1983〕。

7. *Saprinus (Saprinus) planiusculus* Motschulsky, 1849 ドウガネエンマムシ

産地：Hiogo〔Marseul, 1873〕。

8. *Hypocaccus (Nessus) asticus* (Lewis, 1991) ヒメハマベエンマムシ。

本種も前報以後に記録された種である。沢田和宏氏によると(1987)本種は小さい(体長2mm)ので発見しにくい上に生息している場所が砂が黒っぽくて粒も小さい密な感じのする砂地で海水の全くかからない海浜上部の植物根際周辺ということでその様な場所を調べれば見出されるだろうとのこと。

産地：姫路市的形〔沢田, 1987〕。

9. *Hypocaccus (Baeckmanniolus) varinus* (Schmidt, 1890) ハマベエンマムシ

産地：津名郡淡路町松帆ノ浦〔高橋 TO., 1983〕。西宮市御前浜〔沢田, 1986〕。明石市林崎〔高橋 TO., 1983〕。姫路市的形〔沢田, 1987〕。白浜ノ宮〔高橋 TO., 1983〕。赤穂市唐船サンビーチ〔沢田, 1987〕。

10. *Saprinus (Saprinus) splendens* (Paykull, 1811) ルリエンマムシ

産地：洲本市安平町〔堀田，1978〕。伊丹市〔河上，1984〕。神戸市御影〔関，1933〕，教育植物園，鳥原，藍那〔高橋 TO.，1983〕。城崎郡竹野町西町〔高橋 TA.，1978〕。

Subfamily Dendrophilinae オオマメエンマムシ亜科

11. *Anapleus semen* (Lewis, 1884) ツプエンマムシ

産地：神崎郡大河内町砥ノ峰〔高橋 TO.，1983〕。

12. *Bacanius* (Mullerister) *niponicus* Lewis, 1879 アカツプエンマムシ

前報以後神戸市内でも採集した。

産地：川辺郡猪名川町内馬場〔仲田，1979，1982〕、槻並〔高橋 TO.，1983〕。神戸市鳥原 (2exs.，5—VI—1984)

13. *Dendrophilus xavieri* Marseul, 1873 オオマメエンマムシ

沢田和宏氏によると (1987) 鶏糞から極く普通に産するとのこと。従って調査が不十分と考えられる。

産地：三木市別所町下石野〔沢田，1987〕。城崎郡日高町神鍋〔高橋 TA.，1976〕。

14. *Carcinops pumilio* (Erichson, 1834) クロチピエンマムシ

本種は沢田和宏氏によると (1987)、養鶏場に生息する一番多く普通に見られる種とのことである。

産地：川西市笹部、東畔野〔仲田，1978，1982〕。Hiogo〔Schönfeldt，1887〕。神戸市鳥原〔高橋 TO.，1983〕，長田・大日丘〔沢田，1987〕。三木市別所町下石野、同小林〔沢田，1987〕。城崎郡香住町小原〔高橋 TA.，1978〕。

15. *Platylomalus mendicus* (Lewis, 1892) ヒメチビヒラタエンマムシ

前報以後採集出来ていない。

産地：川辺郡猪名川槻並。城崎郡城崎〔高橋 TO., 1983〕。

16. *Platylomalus niponensis* (Lewis, 1892) オオチビヒラタエンマムシ

本種も前報以後の記録をしらない。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。

17. *Platylomatus viaticus* (Lewis, 1892) ツヤチビヒラタエンマムシ

この種は今回始めて県下から記録するものである。この属の種は朽ち木とか落葉下などで採れることが知られているがこの種は城崎郡日高町で朽ち木の樹皮下から採集したものである。この属の各種の検索表は久松定成氏によって発表されている(1984, 1985)。

産地：城崎郡日高町奈佐路(4exs., 25—X—1985, 3exs., 22—V—1986)。

Subfamily Onthophilinae セスジエンマムシ亜科

18. *Onthophilus ostreatus* Lewis, 1879 オオセスジエンマムシ

前報以後県下の記録が無い。

産地：神戸市御影〔関, 1933〕、本山〔中根, 1955, Ohara, M. & Nakane, T., 1986〕。

19. *Notodema fungorum* Lewis, 1884 キノコアカマルエンマムシ

新しい産地もある。普通に見られる種である。

産地：川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市摩耶山〔Ohara & Nakane, 1989〕、鳥原(3exs., 18—VI—1984, lex., 16—VI—1984), 森林植物園(lex., 14—VI—1986)。多可郡鳥羽〔高橋 TO., 1983〕。宍粟郡赤西〔高橋, 1983〕。多紀郡篠山〔Ohara & Nakane, 1989〕。氷上郡山南町(5 exs., 5—VII—1990)。城崎郡三川山〔高橋 TA., 1975〕。養父郡氷の山〔高橋 TO., 1983〕。美方郡扇の山〔辻, 1964., 辻, 岸田, 1972〕。

20. *Atholus depistor* (Marseul, 1873) ムナクボエンマムシ

獣糞とか腐敗動物質に割合多く見られる種である。

産地：洲本市安平町〔堀田，1978〕。三原郡西淡町慶野松原，津名郡岩屋〔高橋 TO.，1983〕。川西市笹部，横地〔仲田，1978，1982〕。神戸市押部谷町木見，広野〔高橋 TO.，1983〕。三木市別所町小林〔沢田，1987〕。多可郡市原，三谷，朝来郡生野〔高橋 TO.，1983〕。

21. *Atholus duodecimstriatus guatuordecimstriatus* (Gyllenhal, 1808) コツヤエンマコガネ

産地：Hiogo〔Schönfeldt, 1887〕。神戸市烏原，押部谷町木見〔高橋 TO.，1983〕。三木市別所町小林〔沢田，1989〕。多可郡三谷〔高橋 TO.，1983〕。城崎郡日高町日野〔高橋 TA.，1976〕。

22. *Atholus pirithous* (Marseul, 1873) ツヤマルエンマムシ

前報で *Hister* 属で報告した。本種も獣糞などに多くいる種で県下の分布も広いようである。

産地：Hiogo〔Marseul, 1873〕。神戸市保久良山〔高橋 TO.，1983〕。三木市別所町小林〔沢田，1987〕。多可郡市原，三谷〔高橋 TO.，1987〕。赤穂市中浜町〔沢田，1987〕。佐用郡大撫山，養父郡氷の山〔高橋 TO.，1983〕。

23. *Hister concolor* Lewis, 1884 クロエンマムシ

新しく氷上郡で採集することが出来た。

産地：津名郡岩屋〔高橋 TO.，1983〕。川西市笹部〔仲田，1982〕。神戸市烏原。多可郡三谷〔高橋 TO.，1983〕。氷上郡山南町 (lex., 11—VII—1990)。

24. *Hister congener* Schmidt, 1885 イブシエンマムシ

産地：Hiogo〔Schönfeldt, H. V. 1887〕。

25. *Hister japonicus* Marseul, 1854 ヤマトエンマムシ

獣糞、腐敗物質に多くいる種。

産地：津名郡岩屋。三原郡西淡町慶野松原〔高橋 TO.，1983〕。川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田，1982〕。川西市笹部〔仲田，1972，1982〕。神戸市烏原，押部谷木見〔高橋 TO.，1983〕。三木市細川中 (lex., 30—V—1985)。朝来郡生野，佐用郡大撫山〔高橋 TO.，1983〕。氷上郡〔山本，1

958]。養父郡妙見山〔高橋 TO., 1983〕。

26. *Hister simplicisternus* Lewis, 1879 ヒメツヤエンママシ

前報以後新しい産地が見つかっていない。

産地：Hiogo〔Lewis, 1879〕。多可郡三谷〔高橋 TO., 1983〕。

27. *Margarinotus (Grammostethus) niponicus* (Lewis, 1895) コエンママシ

腐敗動物質に集り分布も広い。新たに産地として記録される所もある。

産地：川辺郡猪名川町上阿古谷，川西市笹部〔仲田，1982〕。伊丹市〔河上，1984〕。神戸市六甲山，烏原〔高橋 TO., 1983〕。伊川谷前開 (6exs., 19—V—1988)，多井畑 (3exs., 26—VII—1990)。小野市山田 (2exs., 20—V—1987)。多可郡三谷、神崎郡大河内町砥ノ峯〔高橋 TO., 1983〕。龍野市神岡町 (5exs., 13—VI—1983)。佐用郡大嶽山，宍粟郡音水〔高橋 TO., 1983〕。氷上郡〔山本，1958〕，山南町 (2exs., 11—VII—1990)。養父郡氷の山〔高橋 TO., 1983〕。美方郡扇ノ山〔辻，1963、辻・岸田，1972〕。Hataganaru, Tazima〔Ohara, 1989〕。

28. *Margarinotus (Ptomister) aganatus* (Lewis, 1884) ニセヒメエンママシ

西日本に多い種とのことであるが県下での産地は余り知られていない。

産地：神戸市西区学園都市 (lex., 10—V—1985)，Taizan—ji, Kobe〔太山寺? Ohara, 1989〕。

29. *Margarinotus (Ptomister) bleti* (Lewis, 1884) キノコエンママシ

キノコから採集した。県下での記録は之以外知らない。

産地：氷上郡山南町 (lex., 5—VII—1990, 8exs., 6—IV—1990)。

30. *Margarinotus (Ptomister) weymarni* Wonzel, 1944 ヒメエンママシ

本種は割合県下に広く分布しているようである。

産地：津名郡岩屋〔高橋 TO., 1983〕。川西市笹部〔仲田，1979, 1982〕。伊丹市〔河上，1984〕。神戸市御影〔関，1933〕，Mayasan〔Ohara, 1989〕，中津浜〔中根，1955〕，烏原〔高橋 TO., 1

983] 加東郡社町三草 (lex., 15—V—1987)。多可郡三谷〔高橋 TO., 1983〕。氷上郡〔山本, 1958〕。養父郡氷の山〔高橋 TO., 1983〕。

31. *Merohister jekeli* (Marseul, 1857) エンママシ

本種の分布も県下に広い。たゞ個体数が必ずしも多くないように思われる。

産地：洲本市安乎町〔堀田, 1978〕。津名郡津名町大町〔堀田, 1978〕。川西市笹部〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市御影〔関, 1933〕, 六甲山, 平野, 烏原, 白川, 押部谷町木見〔高橋 TO., 1983〕。出石郡但東町佐々木〔高橋 TA., 1963〕。豊岡市上陰、城崎郡香住町明原〔高橋 TA., 1975〕。養父郡氷の山〔高橋 TA., 1959〕。

32. *Zabromorphus punctulatus* (Wiedemann, 1817) アラメエンママシ

前報以後採集出来ていない。

産地：神戸市烏原〔高橋 TO., 1983〕。

33. *Platysoma (Cylister) lineicolle* (Marseul, 1873) ナガエンママシ

産地：洲本市先山〔久松, 1973〕。川西市大和〔仲田, 1970, 1978〕, 笹部〔仲田, 1982〕。神戸市本山〔中根, 1955〕。多可郡烏羽〔高橋 TO., 1983〕。氷上郡〔山本, 1959〕。出石郡但東町中藤〔高橋 TA., 1963〕。

34. *Platysoma (Platylister) pini* (Lewis, 1884) マツナガエンママシ

産地：明石市大久保〔高橋 TO., 1983〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

35. *Platysoma (Platysoma) celatum* Lewis, 1884 ヒメナガエンママシ

産地：川辺郡猪名川町槻並〔高橋 TO., 1983〕。川西市笹部〔仲田, 1979, 1982〕。西宮市船坂 (lex., 5—VI—1987)。神戸市烏原, 山の街, 谷上, 白川〔高橋 TO., 1983〕。城崎郡三川山〔高橋 TA., 1978〕, 日高町奈佐路 (lex., 22—V—1986)。養父郡氷の山〔高橋 TO., 1983〕。Higashi-ashida, Hyogo (?)〔Ohara, 1986〕。

36. *Platysoma (Platysoma) lewisi* Marseul, 1873 オオナガエンマムシ

産地：川西市横地〔仲田, 1978〕、笹部〔仲田, 1982〕。Hiogo〔Marseul, 1873〕。朝来郡生野〔高橋 TO., 1983〕。多紀郡篠山〔Ohara, 1986〕。

37. *Platysoma (Platysoma) rasile* Lewis, 1884 ニセヒメナガエンマムシ

小さい種である（体長3.0 mm）尾節板の点刻は前尾節板の点刻より明らかに小さい。分布は結構広い。筆者県下で樹皮下より採集した。

産地：龍野市神岡町（lex., 26—V—1988）。

38. *Hololepta amurensis* Reitter, 1879 オオヒラタエンマムシ

産地：氷上郡〔山本, 1958〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963., 辻, 岸田, 1972〕。

39. *Hololepta depressa* Lewis, 1884 ヒラタエンマムシ

産地：多可郡鳥羽〔高橋 TO., 1983〕。

40. *Hololepta higoniae* Lewis, 1894 ヒゴヒラタエンマムシ

産地：神戸市烏原〔高橋 TO., 1983〕。

Subfamily Hetaeriinae アリヅカエンマムシ亜科

41. *Hetaerius gratus* Lewis, 1884 アカアリヅカエンマムシ

産地：神戸市須磨区白川〔高橋 TO., 1983〕。

以上兵庫県のエンマムシ類として2科42種を記録した。本州産の半分以上は記録出来た。まだいくらか追加の種があるだろうと考えられるが何分にも採集条件が年々悪くなっている。従ってどの様なエンマムシが県下にどの様に分布しているのかと云ったことをまとめることは至難の業となって来た

ように思われる。

参考文献

前報に掲げた文献以後の出版で同定に参考となった文献だけを示した。

- 平嶋義宏監修 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター (1989). エンマムシ科.
日本産昆虫総目録・I : 246—250.
- 久松定成 (1984). 馬場金太郎博士採集の新潟県エンマムシ科. 越佐昆虫同好会々報 (57) : 19—
24.
- 久松定成 (1985). エンマムシ科. 原色日本昆虫図鑑 II : 220—230. (保育社).
- 久松定成・楠井善久 (1984). 信越地方のエンマムシ科ノート. 越佐昆虫同好会々報 (57) : 15—
18.
- M. Ohara (1986). On the Genus *Platysoma* from Japan (Coleoptera, Histeridae). Pap.
Ent. prec. Nakane, Tokyo p.91—106.
- M. Ohara (1989) On the species of the genus *Margarinotus* from Japan (Coleoptera:Histeridae).
Ins. matsum. n. s. 41 : 1—50.
- 大原昌宏 (1990). エンマムシの生息環境と形態の多様性. *インセクトリウム* 27 (2) : 4—12.
- Ohara and Nakane (1986). On the genus *Onthophilus* from Japan (Coleoptera:Histeridae).
Ins. matsum. n. s. 35 : 1—15.
- Ohara and Nakane (1989). Redescriptions of Two Japanese Histerides Belonging to the
Tribe Exosternini (Coleoptera, Histeridae).
Jpn. J. Ent., 57 (2) : 283—294.
- 斉藤仁志 (1990). 下北半島のエンマムシ類 (I). *Celastrina* (24) : 7—13. (1991・I)

兵庫県のクチキムシ (1)

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 4)

高 橋 寿 郎

クチキムシ科 (Alleculidae) のものはゴミムシダマシ科によく似たグループでその特徴として觸角は糸状まれに櫛状、爪は櫛状があげられている。これ等の区別点並びに幼虫が大変良く似ている点などから独立の科として取扱うことは若干の疑問がある。

日本産のこの仲間の研究は1876年 Marseul が9新種の記載をされたのに始る。次いで G. Lewis が7新種をふくむ11種の記載をされた。これによって日本産のこの類の概畧がまとまったように感じる。その後野村 鎮氏 (1961, 1963)、中根猛彦博士 (1955, 1963, 1968) の研究並びに図説があるが残念ながら綜説のようなものはまだ無いように思われる。

1985年宮武陸夫博士は属までの検索を示されると共に19種を原色で図説された。そして日本産の本科のものは9属25種が知られているとされている。1989年出版の日本産昆虫総目録では2亜科10属30種が収録されている (C記号なのでこの数は日本産50~69%にあたる)。

兵庫県下にこの科のものがどの様に分布しているかと云ったまとめは今迄の所見られないように思われる。そこで此処に筆者の所有標本と従来 of 記録とを参考に県下のクチキムシ科の現時点での分布を中心としたまとめをしておきたい。何分にも浅学未熟の筆者のこと故多くの誤り脱落があると考えられる。それ等に就いて御教示を頂くことが出来れば幸である。

またこの類の成虫は花に来るものが多く葉上などでも得られる。幼虫は樹皮下、朽木の中などに住んでいるが詳しい生活史が調べられている種は残念ながら見出せなかった。

Family Alleculidae クチキムシ科

Subfamily Alleulinae クチキムシ亜科

1. *Allecula cryptomeriae* Lewis, 1895 ホソオオクチキムシ

本種は Chiuzenji, Nikko, Maebashi を産地に Lewis によって記載された種である (1895)。オオクチキムシに良く似た種である。中根博士 (1963)、宮武博士 (1985) による夫々原色図説がある。宮武博士によると夜間朽ち木にいるとある。

県下では中根博士により氷の山が記録されているだけである。県の山岳地帯には分布していると考えられるが良くわからない。

産地：養父郡氷の山〔中根, 1953〕*

2. *Allecula fuliginosa* Mäklin, 1875 オオクチキムシ

Mäklin によって記載された種であるが原記載を見ていないので何処の産のものかわからないが日本からの記載のようである。

Lewis は長崎、京都の産を報告された(1875)。Harold が記載した *Allecula obscura* (1876) 及び Marseul が長崎、摩耶山産で記載した *Allecula velutina* (1876) も共に本種のシノニムになる。

県下では大変普通に見られる種であり分布も広い。

産地：津名郡常隆寺山 (3exs., 20—IV—1994)〔宮武, 1973〕。洲本市先山〔宮武, 1973, 堀田, 1976〕、三熊山〔宮武, 1973〕、安平町〔堀田, 1978〕。川辺郡猪名川町槻並 (lex., 2—VII—1978, lex., 4—V—1979)。川西市見野, 大和, 笹部〔仲田, 1978, 1982〕。伊丹市〔河上, 1984〕。宝塚市切畑 (lex., 18—II—1979)。西宮市船坂 (lex., 21—V—1987, lex., 11—VI—1987, lex., 4—IX—1987)。神戸市 Maiyasan〔Marseul, 1875〕、一王山 (3exs., 22—IV—1978), 再度山 (2exs., 17—I—1919), 烏原 (lex., 30—V—1971, lex., 18—VIII—1974, lex., 31—VII—1977, lex., 22—VI—1980, 2exs., 7—VII—1980, lex., 28—VII—1980, lex., 2—IX—1980, lex., 27—V—1981, lex., 25—VII—1981, 2exs., 17—II—1982, lex., 24—V—1982, lex., 7—VI—1982, lex., 24—VI—1982), 奥平野 (3exs., 25—I—1985), 山の街 (2exs., 29—IV—1960), 藍那 (lex., 14—VII—1978, lex., 19—VII—1978, lex., 4—X—1978), 木津 (lex., 5—X—1984, 2exs., 26—X I—1984), 妙法寺 (lex., 25—VII—1972, 2exs., 2—VIII—1979), 須磨〔戸沢, 1984〕, 伊川谷 (lex., 4—VI—1988, lex., 2—VIII—1988), 多井畑 (lex., 11—VII—1990, lex., 26—VII—1990)。明石市明石公園 (2exs., 21—VI—1975, 3exs., 12—VI—1976, 2exs., 18—IX—1976, lex., 15—VI—1978, lex., 24—VI—1978)。三木市細川中 (2exs., 22—V—1985), 口吉川町 (lex., 7—V—1986), 笹原 (2exs., 26—IX—1986)。小野市山田 (lex., 27—VII—1987, lex., 7—VIII—1987)。美嚮郡吉川町 (lex., 30—V—1985, lex., 11—VII—1985)。加東郡東条町森 (7exs., 29—IV—1984, lex., 11—V—1984, 2exs., 7—VI—1984), 社町三草 (4exs., 16—IV—1987, lex., 22—V—1989, lex., 1—VI—1989)。多可郡白山 (lex., 27—V—1973), 三谷 (lex., 8—VI—1975)。飾磨郡夢前町我孫子 (lex., 5—VIII—1973), 家島〔上田, 1981〕。龍野市神岡町 (2exs., 21—VII—1988)。相生市三湊山 (lex., 20—VII—1974)。佐用郡

* 産地の中で〔 〕のものは文献からの引用、()のものは筆者所有標本。

瑠璃寺 (lex., 15—IX—1971), 大撫山 (2exs., 2—V—1978)。宍粟郡福知溪谷 (lex., 20—VI—1976), 水谷 (lex., 17—VII—1981), 音水 (lex., 16—VII—1972, lex., 11—VII—1978)。水上郡〔山本, 1958〕。豊岡市旭市〔高橋, 1975〕。城崎郡城崎町8 lex., 25—X—1978), 日高町奈佐路 (2exs., 25—X—1985)。養父郡氷の山 (lex., 21—VII—1959)。美方郡扇ノ山〔辻, 岸田, 1972〕。

3. *Allecula melanaria* Mäklin, 1875 クチキムシ

本種も Mäklin によって記載されている (1875)。原記載を見ていないので何処産かわからない。Lewis は Yokohama, Nagasaki を記録された (1895)。Marseul が長崎産 *Allecula rufipes* として記載された種 (1876) は本種のシノニムとなる。

分布は広く日本全国である。野村氏は石垣島から記録しておられる (1980)。

兵庫県下にも分布は広いが個体数がオオクチキムシより少いようである。マツなどの朽ち木に多く見られる。

産地：津名郡常隆寺山〔宮武, 1973〕。三原郡諭鶴羽山〔宮武, 1973〕, 煙島〔登日, 1982〕。川辺郡猪名川町上阿古谷〔仲田, 1970, 1978〕, 槻並 (2exs., 4—V—1979)。川西市一の鳥居 (lex., 22—VI—1952), 笹部, 横地〔仲田, 1978, 1982〕。神戸市六甲山 (lex., 10—VI—1955), 烏原 (2exs., 10—VI—1956, 2exs., 29—IV—1960, lex., 29—V—1977, lex., 5—V—1980, 2exs., 10—V—1981, lex., 21—V—1981, lex., 23—V—1981, lex., 8—VI—1982, lex., 13—VI—1982, lex., 5—X—1982, lex., 13—X—1982, lex., 25—IV—1983, 2exs., 12—V—1983, lex., 23—V—1983, lex., 14—VII—1983, lex., 4—X—1983, lex., 1—X—1984, lex., 5—IV—1985, lex., 1—V—1985, lex., 11—VI—1990), 藍那 (lex., 5—VI—1978, lex., 10—XI—1981), 奥平野 (17exs., 25—I—1985), 木津 (3exs., 26—XI—1984), 舞子 (lex., 23—III—1985), 伊川谷 (lex., 21—IX—1988, lex., 28—IX—1988), 多井畑 (lex., 27—IX—1990)。明石市明石公園 (lex., 15—VI—1975)。三木市口吉川 (lex., 14—VII—1986)。小野市山田 (lex., 8—VI—1987, lex., 22—VII—1987, 5exs., 17—IX—1987)。加東郡社町三草 (2exs., 16—IV—1987)。相生市三濃山 (lex., 18—V—1974)。宍粟郡音水 (lex., 11—VI—1974)。多紀郡西紀町 (lex., 20—IV—1982)。養父郡氷の山 (4exs., 2—VII—1953)。美方郡扇ノ山〔辻, 1963, 辻, 岸田, 1972., 高橋, 1975〕。

4. *Allecula noctivaga* Lewis, 1895 ホソクロクチキムシ

Lewis が Kashiwagi 産で記載された種である (1895)。

中根博士によって図説(1963)されている。

兵庫県下での記録が全く無い。もっと調査をしないといけない種である。

産地：相生市三濃山 (lex., 6—VI—1974)。

5. *Allecula simiola* Lewis, 1895 ウスイロクチキムシ

Lewis が Kashiwagi, Nikko 産で記載された(1895)。Marseul が Hiogo を原産地として記載された *Allecula bilamellata* は本種のシノニムとなる(1876)。

一般に樹葉上に見られる。県下にも広く分布している種のようなのである。

産地：川辺郡猪名川町杉生新田〔仲田, 1982〕。西宮市船坂(7exs., 5—VI—1987, 4exs., 11—VI—1987)。Hiogo〔Marseul, 1876〕。神戸市藍那(2exs., 8—VI—1969), 烏原(2exs., 12—VI—1980, lex., 15—VI—1980, lex., 16—VI—1980, lex., 4—VII—1980, 2exs., 4—VI—1982, lex., 5—VI—1982, lex., 9—VI—1982, 2exs., 11—VI—1982), 伊川谷(4exs., 7—VI—1988, lex., 6—VII—1988), 多井畑(2exs., 19—VI—1980)。三木市細川中 (lex., 30—V—1985, lex., 11—VII—1985), 口吉川町(7exs., 3—VII—1956, lex., 14—VII—1986)。美嚢郡吉川町 (lex., 27—VI—1985, 3exs., 30—V—1985, 2exs., 6—VI—1985), 吉川町奥山 (lex., 10—VI—1986, lex., 19—VI—1986)。加東郡東条町森 (lex., 7—VI—1984)、社町三草(2exs., 17—VI—1987, 3exs., 24—VI—1987, 4exs., 1—VI—1989, lex., 6—VII—1989)。多可郡白山 (lex., 27—V—1973), 鳥羽 (lex., 1—VI—1975)。神崎郡笠形山(2exs., 16—VI—1975), 大河内町川上 (lex., 15—VII—1977)。龍野市神岡山 (lex., 13—VI—1988, lex., 22—VI—1988)。相生市三濃山 (lex., 6—VII—1973, 8exs., 8—VI—1974, lex., 16—VI—1974, lex., 20—VII—1974)。宍粟郡音水 (lex., 5—VII—1973, 2exs., 24—VI—1973)。養父郡氷ノ山〔高橋, 1975〕。

6. *Allecula tenuis* Marseul, 1876 ホソアカクチキムシ

Marseul が Hiogo を原産地に記載された種である(1876)。県下では山地帯に分布しているように海岸線ぞいの記録が全くない。中根博士(1963)、宮武博士(1985)の原色図説がある。

産地：Hiogo〔Marseul, 1876〕。多可郡白山 (lex., 27—V—1973)。宍粟郡音水 (lex., 15—VII—1973)。氷上郡〔山本, 1958〕。美方郡扇ノ山〔辻, 1963, 辻, 岸田, 1972〕。

7. *Borboresthes acicularis* (Marseul, 1876) クリイロクチキムシ

Marseul が Hiogo 産で *Allecula* 属で記載された種である(1876)。

県下での記録は多くないが注意すれば広く産すると考えられる。

葉上にいる種でとくに神戸市内では多い。

産地：川西市笹部、大和、横地〔仲田，1978，1982〕。Hiogo〔Marseul，1876〕。神戸市烏原（lex.，13—VI—1971，lex.，7—VII—1977，lex.，11—VI—1980，lex.，14—VII—1980，lex.，21—VII—1980，lex.，9—VIII—1980，lex.，25—VI—1981，lex.，29—VI—1981，lex.，8—VI—1981，2exs.，9—VI—1981，2exs.，10—VI—1982，lex.，21—VI—1982，2exs.，24—VI—1982，3exs.，26—VI—1982，lex.，28—VI—1982，lex.，2—VII—1982，lex.，4—VII—1982，lex.，5—VII—1982，lex.，9—VII—1982，lex.，13—VII—1982，lex.，19—VI—1983，lex.，22—VI—1983，lex.，23—VI—1983，lex.，28—VI—1983，lex.，11—VII—1983，lex.，6—VII—1984，lex.，14—VIII—1984），逢山峡（lex.，2—VII—1982，2exs.，1—VII—1986），伊川谷（2exs.，6—VI—1988）。明石市明石公園（lex.，21—VI—1975）。三木市美囊川々原（lex.，25—VI—1979），細川中（lex.，1—VIII—1985），口吉川町（lex.，14—VII—1986）。加東郡社町三草（lex.，6—VII—1989）。

尼崎西南部の昆虫（その4）

新 家 勝

VI Hymenoptera膜翅目

1. Siricidae キバチ科

(1) *Tremex fuscicornis* Fabricius ヒラアシキバチ

1944.10.8

武庫川堤防上のエノキの大木に産卵していたもの。地上約1 m以下の樹幹に多数の♀が産卵管をさしこみ、人が近づいても逃げられない状態であった。そして、あるものは既に死んでおり、あるものは飛び立とうとしてもがいていた。後日、見ると多数の産卵孔があいていた。

2. Tenthredinidae ハバチ科

(1) *Dolerus hordei* Rohwer ムギハバチ

1946.4.10

(2) *Pachyprotasis serii* Okutani セリシマハバチ

1947.4.19

- (3) *Apethymus kuri* Takeuchi クリハバチ
1946.6.26
- (4) *Arge nipponensis* Rohwer ニホンチュウレンジハバチ
1947.6.18

2. Ichneumonidae ヒメバチ科

- (1) *Hadrojoppa cognatoria* Smith クロヒメバチ
1946.10.9
- (2) *Ichneumon tibialis* Uchida サキマダラヒメバチ
1947.5.13
- (3) *Trogus mactator* Tosquinet アゲハヒメバチ
1949.10.16
- (4) *Callajoppa pepsoides* Smith クロハラヒメバチ
1942.7.13
- (5) *Ichneumon generosus* Smith マダラヒメバチ
1946.6.30
- (6) *Coccygomimus disparis* Viereck ヒメキアシヒラタヒメバチ
1946.11.16
- (7) *Coccygomimus pluto* Ashmead クロヒラタヒメバチ
1949.11.6
- (8) *Dolicomitus* の一種
1946.11.14
- (9) *Itoplectis naranyae* Ashmead アオムシヒラタヒメバチ
1946.5.6
- (10) *Picardiella tarsalis* Matsumura コクロオナガヒメバチ
1947.6.3
- (11) *Habronyx heros* Wesmael マツケムシャドリコンボウアメバチ
1946.12.17

3. Formicidae アリ科

- (1) *Camponotus japonicus* Mayr クロオオアリ
1946.6.6, 1946.6.7
- (2) *Polyrhachis lamellidens* Smith トゲアリ

1946.11.6

4. Scoliidae ツチバチ科

- (1) *Campsomeris grossa* Fabricius オオハラナガツチバチ

1945.10.10

- (2) *Campsomeris shulthessi* Betrem ハラナガツチバチ

1947.6.23

- (3) *Scolia oculata* Matsumura キオビツチバチ

1946.6.26

ツチバチ類は、これ以外にヒメハラナガツチバチ、オオモンツチバチ、コモンツチバチがおり、オオイボタ、セイタカアワダチソウ、オオアレチノギクなどの花によく飛来した。オオハラナガツチバチは少なく、ヒメハラナガツチバチは特に多かった。夏の夕暮れ、武庫川堤防に多数生えているオオアレチノギクに、これまた多数のツチバチたちが眠るようにとまっていた。

5. Mutillidae アリバチ科

- (1) *Timulla insidiator* Smith フタホシアリバチ

1946.8.13

6. Chrysididae セイボウ科

- (1) *Chrysis ignita* Linne ヨツバコセイボウ

1946.7.1, 1949.6.17

- (2) *Chrysis splendidula* Rossi ツمامラサキヨツバコセイボウ

1947.7.18, 1947.7.22

- (3) *Chrysis shanghaiensis* Smith イラガイツツバセイボウ

1947.7.21, 1947.7.22

- (4) *Chrysis fuscipennis* Brulle クロバネヨツバコセイボウ

1946.8.16, 1948.8.29

- (5) *Stilbum cyanurum* Forster オオセイボウ

1946.6.17, 1949.9.24

7. Vespidae スズメバチ科

- (1) *Vespula lewisi* Cameron クロスズメバチ

1947.5.26, 1950.5.8

- (2) *Eumenes decorata* Smith スズバチ

1945.10.2

- (3) *Vespa tropica* Linné ヒメスズメバチ
1944.6.11
- (4) *Vespa analis* Fabricius コガタスズメバチ
1943.8.24
- (5) *Antherhynchium flavomarginatum micado* Kirsch オオフトオビドロバチ
1946.6.16
- (6) *Stemodynerus frauenfeldi* Saussure チビドロバチ
1947.7.16

スズメバチ科では、セグロアシナガバチ、フタモンアシナガバチは多く、池のウキクサやア
 オウキクサの上に降りて口に水を含み、物干の柱、電柱、板塀などへ運んでその表面を濡らし
 て柔らかくし、巣の材料を噛み取っていた。キボシトツクリバチ、トツクリバチ、カバフスジ
 ドロバチ、フカイドロバチは普通におり、ドロバチ類はオオイボタの花によく飛来した。

8. Pompilidae ベッコウバチ科

- (1) *Cyphonox dorsalis* Lepeletier ベッコウバチ
1944.6.20
- (2) *Batozonellus anulatus* Fabricius キオビベッコウ
1944.7.3,1949.9.11
- (3) *Episyron arrogans* Smith オオシロフベッコウ
1947.6.20
- (4) *Anoplius samariensis* Pallas オオモンクロベッコウ
1946.7.13

9. Sphecidae ジガバチ科

- (1) *Ampulex amoena* Stal セナガアナバチ
1947.6.14,1947.6.15
 当時、ほとんどの民家の壁は、土壁の外面を焼板で覆ったものであったが、こうした壁板の
 表面をよく這っており、壁板の隙間や節孔から出入りするのも見られた。狩りの対象となるク
 ログキブリも普通にいた。
- (2) *Trypoxylon obsonator* Smith ジガバチモドキ
1947.6.14
- (3) *Sceliphron madraspatanum* Fabricius キゴシジガバチ
1946.8.9

(4) *Sceliphron inflexum* Sickmann ルリジガバチ

1946.7.10, 1947.6.28

(5) *Sphex argentatus fumosus* Mocsary クロアナバチ

1947.8.25

クロアナバチとともに普通におり、オオイボタの花によく飛来した。

(6) *Ectemnius carinalis* Pérez マルモンツチスガリ

1946.6.21

オオイボタの花に飛来したもの

10. Halictidae コハナバチ

(1) *Lasioglossum mutillum* (Vachal) シロスジコハナバチモドキ

1947.4.26

11. Megachilidae ハキリバチ科

(1) *Megachilie sculpturalis* Smith オオハキリバチ

1947.7.25

7月以降、サルスベリの花が咲くと、よく吸蜜に来た。

12. Apidae ミツバチ科

(1) *Anthophora acervorum villosura* Smith ケブカハナバチ

1946.4.26

ヒラドの花に来たもの。極めて少なく、この1頭を得たのみ。

(2) *Bombus sapporensis* Cockerell オマルハナバチ

1944.4.28

ヒラドの花に来たもの。非常に少なく、これ以外には2・3頭目撃したのみ。

他のマルハナバチ類は見たことがなかったが、シロスジヒゲナガバチ（ニホンヒゲナガバチ
だったかも知れない）は多く、小学校校庭の築山などに多数の巣孔をあけて住んでいた。

宝塚市西谷地区の昆虫数種について

森 和 夫

西谷地区には、玉瀬、^{たまたせ}境野、^{さかいの}大原野、^{おおはらの}下佐曾利、^{しもさそり}波豆等が含まれる。この地区は、宝塚市の北半分を占め、高原状の地形に田園風景が広がっている。特に、玉瀬付近は、古くからギフチョウを多産することで有名であった。1970年頃には、ギフチョウの個体数も多く、春になると毎年のようにここへ通っていた。

その後、長いブランクがあったが、川西市見野に転宅したところ、この宝塚市西谷地区へは意外と近く、猪名川町を抜けると、車では20分もあれば行けることが分った。従って、少しの空き時間を利用して、この付近を回ってみた。今ではギフチョウは激減し、ほとんど姿を見ることができなかったが、数種のトンボと甲虫を得ることができたので報告する。

1) トンボ類

西谷地区には、小さな溜池が点在し、谷川も余り汚染されていないため、ヤンマやサナエトンボ等をよく見掛けたが、落ちていて採集ができなかったこともあって、種名までは確認できないものが多かった。しかし、後記のようにサラサヤンマを採集し、また、ヨツボシトンボの多産を確認した。

① サラサヤンマ *Oligoaeschna pryeri* (Martin)

○境野;28—V—1990. 1 ♀, 17—VI—1990. 1 ♂.

国内に産するヤンマの仲間では最小の種類であり、腹部に細かい黄色紋が並んでいて可憐な感じがする。近畿地方でも、かなり稀な種のようなのである。

1962年に川西市一の鳥居の北で1♂を得たことがあり(標本は虫に食われて消失した)、今回は、それ以来の採集であった。

関西トンボ談話会による「近畿地方のトンボ」(1975年、大阪市立自然史博物館収蔵資料目録、第7集)では、宝塚市内からは未記録である。

前者の1♀は、鹿田の縁で、1m程の高さをホバリング(滞空飛翔)していた。また、後者1♂は、小さい湿地の空間を縄張りにし、2m程の高さをゆっくり飛んでいたところを採集した。いずれの日にも他の個体は見掛けなかった。

② ヨツボシトンボ

Libellula quadrimaculata asahinai Schmidt

○玉瀬；24—V—1968. 3♂, 18—V—1969. 1♂.

○境野；28—V—1990. 1♂（他に、10数頭目撃）

本種は、北方系のトンボであり、北海道や東北地方では普通種のようなものである。以前に北海道へ行った際、知床五湖では多数飛んでいた。しかし、近畿地方等では産地が限定され、個体数も少ないようである。この西谷地区でも生息する池は限られ、前記データのように玉瀬で採集したことがあるが、個体数は少なかった。

今回は、境野の溜池において、多数発生していることを確認し、その内の1♂を採集した。

2) 甲虫類

西谷地区は、隣接する川西市や猪名川町と比べると、クヌギ林がほとんど無い。この付近の山林は、赤松を主体とする貧弱な雑木林であるため、クワガタムシ等の大型の甲虫採集には向かない。従って、蝶以外目的では、採集者も少なく、余り調査されていないものと思われる。今回は、テントウムシ1種と、ハムシ4種について報告する。

① ジュウサンホシテントウ

Hippodamia tredecimpunctata (Linné)

○大原野；12—V—1990. 3exs.

地色が橙赤色で、上翅に13個の黒い斑紋を有する、やや小型のテントウムシである。

大原野の挺水植物が多く生えている溜池を調べていて、このテントウムシを見付けた。その周囲を探し、さらに2頭を採集することができた。これらが止っていた草も持ち帰り、植物図鑑で調べたところ「クサヨシ」であった。

原色日本甲虫図鑑Ⅲ、P262（保育社刊）によると、ジュウサンホシテントウは、北半球に広く分布し、国内でも北海道から九州にかけて記録されているとのことである。

筆者は、手持ちの資料が少なく、詳しいことがよく分からないが、愛知県の昆虫（上）P.259、（1990年、愛知県昆虫分布研究会発行）によると、愛知県では数ヶ所の産地が記録されており、「アシの葉上で発見されるが、比較的少ない。」と記載されている。兵庫県下においても、多いものではないと考えられるが、池のアシやクサヨシ等が多い所を探せば、他でも採集できそうに思う。

② ネクイハムシ *Donacia lenzi* Schönfeldt

○波豆；29—V—1989. 8♂8♀, 3—VI—1989. 2♂6♀, 30—V—1990. 1♀, 4—VII—1990. 1♀.

○下佐曾利；12—V—1990. 6♂7♀, 20—V—1990. 4♂5♀、ネクイハムシは、美濃郡吉川町に多産することが高橋寿郎氏によって報告されている（きべりはむし、Vol. 14, No. 2, P.43～44, 1986）。また、ネクイハムシの仲間については、「アトラス日本のネクイハムシ」（野尻湖

昆虫グループ編、1986) が詳しく、本種の兵庫県下のデータとしては、猪名川町や西宮市、芦屋市等の7ヶ所が記録されている。これには、宝塚市での記録は載っていないが、前記データのよ
うに、この西谷地区でも本種は少なくない。

当地では、ジュンサイの生育している池を目当てに探せば容易に見出すことができる。成虫は、
5～6月に個体数が多く、8月に入っても若干見られる。ジュンサイの葉上に止まっていることが
多いが、活発に飛ぶため採集しにくい。

1989年6月3日に波豆の池を訪れた時には、丁度、ジュンサイを収獲しているところであった。
1 m四方程の筏の上に立った老人が、竹棹を器用に操りながら、ジュンサイのツルを切り、岸辺へ
寄せ集めていた。岸辺では、女性2人が収獲を行っていた。このジュンサイには、ジュンサイハ
ムシ *Galerucella nipponensis* が大発生していて、葉の裏には幼虫も多数見られた。老人の話では、
「ジュンサイハムシは、ジュンサイの害虫であり、筏の上に這い上がってくるため、踏み潰すと足
元が滑ってあぶない」というようなことを言っていた。しかし、ネクイハムシの方は、ジュンサイ
ハムシと比べると個体数が少なく、すばやく飛び立つため、その存在に気付いていなかった。

③ キンイロネクイハムシ *Donacia japana* Chūjō et Goecke

○下佐曾利; 6—V—1990. 10♂ 8♀, 12—V—1990. 12♂ 8♀, 20—V—1990. 7♂ 5♀.

20年余り前になるが、神戸昆虫同好会の例会で藤田国雄氏宅に伺った際、標本を拝見した中に宝
塚市産のキンイロネクイハムシがあった。その時、ハムシの仲間にも、このような光沢の美しい種
がいることを知って感動を覚えた。採集地は、現在のJR宝塚駅北の斜面にある池とお聞きしたよ
うに記憶している。その頃、すでにその池の周辺は宅地化が進んでおり、採集はできなくなってい
るとのことであった。

前記「アトラス日本のネクイハムシ」によると、本種の産地は極めて限定されるようである。こ
の中で「大原野北方の池」に多産することが報告されている。今回(1990年)の採集地は、多分こ
れと同じ池と思われる。周辺の溜池も、何ヶ所か調査したが、この池以外では得られなかった。当
地は、兵庫県下におけるキンイロネクイハムシの多産地としては唯一の池と考えられるため、この
環境をいつまでも保存しておいてほしいものである。

なお、この同じ池で、ネクイハムシも発生していた(前記)。

④ ヤツボシツツハムシ *Cryptocephalus japonus* Baly

○境野; 28—V—1990. 1ex.

本種は、体長8 mm位で、ツツハムシの仲間としては大型である。上翅には、黄色の地に黒い斑
が8個あって美しい。

前記のサラサヤンマ♀を採集した後、畦道を戻っている時、足元を低く飛んでいるハムシを見付

けた。イタドリハムシのように見えたが、ネットで掬ったところヤツボシツツハムシであった。これまで、六甲山系や能勢地方等においても本種を採集することがなかった。この地区でも稀な種と思われる。今回の採集地付近には、カシワもナラガシも全く生育していないが、コナラヤクリが多いため、そのどちらかがホストであろうと考えられる。

⑤ ムギヒサゴトビハムシ *Chaetocnema cylindrica* (Baly)

○境野；28—V—1990. 17exs.

体長は、2～3mmの小型のハムシであるが、前胸背及び上翅は、金緑色の光沢があり、粗い点刻に覆われていて美しい。

原色日本甲虫図鑑Ⅳ（保育社刊）及び、原色昆虫大図鑑Ⅱ、甲虫篇（北隆館刊）等、いずれにも、本種のホストはコムギとなっている。従って、麦畑があると時々覗いてみたが、これまで本種を見ることができなかった。

今回、前記ヨツボシトンボを多産する溜池で、緑の挺水植物をスィーピングすると網に入ってきた。この溜池は、雑木林に囲まれていて麦畑は全く無かった。また、その挺水植物は、カヤツリグサの一種と思われ、一面に繁っていたため、これがホストと思われた。今後、ここでの食草を確認したいと思っている。

この西谷地区は、前述のように宝塚市の北半分を占めるが、山間部にあり、交通の便が悪いため、これまでは開発の手が届かずにいた。しかし、ここも阪神間のベッドタウン化を目的とした「宝塚新都市構想」が検討されていると聞く。すでに幹線道路は、道巾が拡張されてきている。この地の開発も、そう遠いことではないかもしれない。

ここには、マニアが追い求めるような種類は、あまり居ないが、今回報告したように、隣接する地域とは少し異なった環境がある。この環境が、いつまでも保たれることを願っているが、今の間に少しでも調査しておくことも必要と考えられる。

但馬地域におけるミスジチョウの分布

近藤伸一

本種は北海道から九州まで広く分布し、関東地方以北では平地にも分布するが、中部以西ではおもに山地に生息し、九州では完全に山地の蝶となっている。

兵庫県では6月上旬頃羽化するが、7月中にはカエデ類に産卵して成虫の姿は見えなくなるため、成虫を見る機会が少なく、これまで県下で比較的珍しい種とされていた。卵から孵った幼虫は、カエデ類の葉を食べながらゆっくりと成長し、主に4齢で冬を迎える。幼虫は葉柄の基部を糸でしっかりと固定して、枯れ葉に静止したまま越冬する。1月に入るとカエデ類はほとんど落葉してしまうので、越冬幼虫のいる枯れ葉だけが残るため、分布調査は容易になり、越冬幼虫の調査によって県下各地に分布していることが明らかになった。

県南部における分布調査の結果については、兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布（広畑・佐々木1982）、三田市周辺に於けるミスジチョウの分布（広畑・近藤1982）、東播磨におけるミスジチョウの分布（広畑・近藤・徳岡1984）によって報告されているが、但馬地域においてははまとまった記録がない。筆者は勤務の都合で2年間豊岡市に住み、本種の生息場所を十数箇所確認することが出来た。但馬地域は県南部の生息地と比較すると、生息環境は良好であっても個体数は少ない。また葉柄の基部が糸で固定され台座の跡があるのに、幼虫のいない枯れ葉がよく目につく。当地方は鳥類のエサが冬季に積雪で不足し、鳥類に捕食される幼虫の数が多いのかも知れない。

とりあえず新たに見つかった産地とその他に判明したものを、これまでに発表されている記録と合わせて、但馬地方の現在の分布の状況を報告する。

なお、採集者の明記していないものは、筆者が採集したものである。

〈採集記録〉

豊岡市：百合地（2幼虫，22. I. 1989），福成寺（8），妙楽寺（4）神武山（4）。

出石郡：出石町袴狭（2幼虫，17. II. 1990），出石町宮内（1幼虫，17. II. 1990），出石町奥山（8），出石町名荷谷（3），但東町薬王寺（1幼虫，22. I. 1989）。

城崎郡：竹野町御又（2幼虫，23. II. 1990），竹野町三原（2幼虫，13. III. 1990），香住町下岡（2幼虫，9. III. 1990）。

美方郡：村岡町板仕野（2幼虫，20. I. 1990），村岡町燿山（8），温泉町湯（1幼虫，17. 12. 1982），

温泉町湯中山 (2幼虫, 9. II. 1990), 温泉町扇ノ山 (4), 美方町久須部 (3幼虫, 23. II. 1990), 美方町大谷 (1幼虫, 21. I. 1989).

養父郡: 氷ノ山 (4), 関宮町鉢伏山 (2), 大屋町筏 (4), 大屋町若杉 (4).

朝来郡: 朝来町石田 (1幼虫, 21. III. 1990), 朝来町岩屋観音 (8), 和田山町糸井 (3), 生野町菖蒲沢 (1♂, 10. VI. 1975尾崎勇), 生野町黒川 (1幼虫, 24. III. 1985), 生野町栃原 (2幼虫, 4. I. 1987).

<参考文献>

- (1) 福田晴夫ほか (1983) 原色日本蝶類生態図鑑 (II) 保育社、大阪
- (2) 播磨蝶友会 (1977) ひろおび (2) :15
- (3) 木下賢司 (1979) 床尾山の蝶 IRATSUME (3) :29
- (4) 高橋 匡 (1979) 但馬地方昆虫目録 IRATSUME (3) :51
- (5) 広畑政巳・近藤伸一 (1982) 三田市周辺に於けるミスジチョウの分布について きべりはむし10 (2) :16
- (6) 広畑政巳・佐々木 薫 (1982) 兵庫県南西部に於けるミスジチョウの分布について ひろおび (6) :35~37
- (7) 広畑政巳・近藤伸一・徳岡正己 (1984) 東播磨に於けるミスジチョウの分布について てんとうむし (9) :59
- (8) 木下賢司・前平照雄・福井丈嗣 (1986) 但馬地域の蝶類目録 IRATSUME (10) :82

但馬地域のオオムラサキの新産地について

近 藤 伸 一

オオムラサキは、淡路島以外の県下の広い地域に分布し、その全容については広畑政巳 (1987) が発表されている。

この度、但馬地域の過去に採集記録のない場所で、本種の幼虫を採集しているので報告する。

〈採集記録〉

豊岡市下鉢山 (4幼虫, エノキより, 17・II・1990)

城崎郡香住町上計 (2幼虫, エノキより, 23・12・1989)

美方郡村岡町村岡銚子ガ谷 (1幼虫, エゾエノキより, 13・V・1988)、村岡町宮神 (2幼虫, エゾエノキより, 9・XII・1989)、美方町秋岡 (4幼虫, エノキより, 23・II・1990)、美方町神場 (4幼虫, エゾエノキより, 23・II・1990)、美方町新屋 (6幼虫, エゾエノキより, 23・II・1990)

〈参考文献〉

- (1) 広畑政巳 (1987) 兵庫県産蝶類分布資料 (4) 一タテハチョウ科シジミチョウ科11種の記録—てんとうむし (10) :14~15

ヒゲナガサシガメ・ベニモンマキバサシガメ共に氷上郡山南町に産す

高橋 寿郎

○ ヒゲナガサシガメ *Endochus stalianus* Horváth は1926年福井玉夫博士が発表された“内地産食虫椿象図説”の中で(昆虫、2巻2号、P75—76)博士自身標本がないので“Horváth 及松村松年博士の記載によった”として産を本州、九州として記載された。

筆者はこの Horváth の原記載 (Termesz. Füzetek, Vol. III, 1879, P147) 並びに松村博士の記載文を見ていないのでこの福井博士の記載が一番古く知った文献である。

その後加藤正世博士は分類原色日本昆虫図鑑第5輯 (pl. 22, f. 1, 1933) にカラーで図説をされ分布を本州、四国(未記録)、九州、台湾(未記録)として椎、樫の如き植物の葉上に採集出来るが稀であるとされた。

1950年江崎悌三博士は日本昆虫図鑑 (p.252, f. 659) に図説され“本種は本州、四国及び九州の山地に産し潤葉樹上に棲息するも多くない”と記しておられる。それ以外どうも図説がされていない様で原色日本昆虫大図鑑 第3巻 (1965) にも出てこない。割合と全国的に見ても少い種のように思われる。

兵庫県下からは山本義丸氏が1954年(丹波地方、氷上郡、多紀郡) 1958年(氷上郡) にそれぞれ記

録をされているがどちらの記録にも多いのか少ないのかまたデータその他が一切示されていないのでどのような産出状況の種なのかわからなかった。それ以外兵庫県下での本種の記録は全く知らない。それ故県下では珍しい種なのだろうと考えられる（或は山本氏の手許には氷上郡下で多くいると云うデータがあるのかもしれないが）。

1990年7月5日たまたま氷上郡の山南町で採集する機会にめぐまれ道端のクヌギの葉を網ですくって歩いて一頭入って来た。一見して割合大きいし（体長11.5mm 半翅鞘先端まで14mm）生きていた時は美しい黄褐色のサシガメで筆者としては生れて始めて採集したもので珍しいのではないかと喜びかなり丹念に探して見たがこの一頭しか得られなかった。上記山本氏の記録してあるように氷上郡下では広く分布している種なのかもしれないが県下の記録としては氷上郡以外見られずやはり数少いサシガメの1種かとも思われ此処に記録しておく。尚この地ではトビナナフシ *Micadina phlucaenoides* Rehn が割合と見られた。この種もそうざらにいるナナフシでは無いように思う。

○ ベニモンマキバサシガメ *Gorpis cribraticollis* Stål

この種の方も福井玉夫博士が図説しておられる（昆虫, Vol. 2, No. 2:84, f. 28, 1927）。産地は本州とだけになっている。

江崎悌三博士は日本昆虫図鑑で図説され（P.256, f. 669, 1950）“本州の山地に産するが至って珍らしい種で又満洲、セイロンからも知られていると”と記しておられる。

宮本正一博士は原色で図説され（原色日本昆虫大図鑑第3巻, pl. 48, f. 14, p.96, 1965）“山地の闊葉樹の葉裏で発見されるが少ない。分布：本州・四国・九州・満洲・セイロン・ジャバ”と解説しておられる。淡黄緑色の地に紅色紋を有し肢の腿節の末端部は血紅色でなかなかきれいな種である。この種は兵庫県下からは従来記録が無かったと思われる。即ち兵庫県新記録種である。9月6日氷上郡山南町でやはりクヌギの葉をすくって一頭採集することが出来た。両種共に仲々探して見つかる種ではなく偶然の出会いの様な気がするが詳しい生態その他が全くわからないサシガメである。

ユリクビナガハムシの採集記録について

森 和 夫

ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* (Linné) を、自宅(川西市)にて採集することができたので報告する。

また、以前には、三田市在住の犬飼利也氏が、庭でハムシをよく見ると言われ、1頭を持って来て頂いたのが本種であった(データは後記)。これが初めて見る本種であったため、珍しい種類であることを強調し、居れば、もっと採集して頂きたいと、お願いしたが、その後は採集できなかったそうである。

食草として知られるユリの仲間は、身近かな植物であるため、注意してきたが、ユリクビナガハムシは、これまで、なかなか採集することができなかった。しかし、前記の、犬飼氏の例もあるので、園芸店でカノコユリやヤマユリ、スカシユリ等の鱗茎を買って来たり、野外でササユリやオニユリを見付けては、自宅の庭で育ててきた。これらのユリは、放任状態では、いつの間にか枯れてしまったものも多かったが、オニユリは非常に丈夫で、野外でムカゴを採って来ては庭へまいておいたところ、数年で大きく育ち、大きいものは2mを越える高さとなって多数の花を咲かせるようになった。

その後も、やはり、ユリクビナガハムシの方は、容易には姿を見せてくれなかったが、昨年(1990年5月)、そのオニユリの葉上に赤いハムシを見つけた。まさかと思ったが手に取って見ると、ユリクビナガハムシに間違いない。さらに、別の株を探したところ、もう1頭を得ることができた。

この2頭は、共に♂と考えられ、犬飼氏に頂いた個体より、ひと回り小型であった。いずれも殺さずに、空瓶に入れて飼育を試みた。後に♀も採集できればと思い注意したが、その後は1頭も得られなかった。

丁度、この飼育を行っていた時、「きべりはむし、Vol. 18, No.1」が手元に届いた。この号には、高橋寿郎氏と永幡嘉之氏がユリクビナガハムシについて詳しく紹介されておられたので大変参考になった。

Pacific Insects Vol. 3, No.1, p126(中條道夫・木元新作両博士)では、本種の分布は国外では、ヨーロッパ、シベリヤ、中国、メキシコ、ブラジル等が記載されている。また、この中で、食草としては、ユリの類、ネギ、スズランの類、ユキザサの類が掲げられているため、自宅の庭で栽培していたユリ科植物の葉を、試しに与えてみた。

先ず、オニユリと共に、カノコユリ、スカシユリを与えたが、オニユリばかり食べていた。しかし、

この中からオニユリを抜くとカノコユリヤスカシユリも食べるようになった。次に、ネギ、ドイツズラン、タカマホトトギス、キジョウロホトトギスを与えたが、前記のオニユリ等を除いた状態でも全く食べる様子がなかった。広く分布する本種であるため、地域によって食性が異なるのかもしれない。

さらに飼育を続けたところ、6月下旬頃には、全く食草を食べなくなった。そのまま夏眠にでも入るかと思ったが、7月19日には2頭とも死亡した。飼育容器内が、乾燥し過ぎた等の、飼育条件に問題があったかもしれない。次回、本種を採集することができれば、もう少し飼育方法を工夫してみたいと思う。

〈採集データ〉

- ① 三田市藍本、20—V—1979. 1ex.,
犬飼利也氏採集
- ② 川西市見野字山形、6—V—1990. 2exs.,
筆者採集

終りに、貴重な本種を採集され、御供与頂いた犬飼利也氏に厚く御礼を申し上げます。

ユリクビナガハムシ三木市大村にても発見

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 5)

高 橋 寿 郎

ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera* (Linné) については永幡嘉之氏が本誌上 (Vol. 18, No. 1, 1990) にて三木市での産地を詳しくまとめておられるが同じく永幡氏から三木市大村でも発見したとの御連絡を頂いたので此処に記録させて頂く (2exs., 28—IV—1990)。御連絡頂いた永幡氏に厚く御礼申し上げます。

キベリハムシ氷上郡山南町五ヶ野にて採集

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 6)

高 橋 寿 郎

氷上郡におけるキベリハムシ *Oides bowringii* (Baly) の分布に就いては仲井啓郎氏が詳しくまとめ報告されている(1976, 1976, 1977)。その内山南町からの記録は既に阿草および南中、和田および谷村、富田および若林と6ヶ所が記録されている。尤も記録は若干古いもので(昭和47~49年)最近の状況がどんなであるかと云うことは余り良くわかっていない。1990年機会があって山南町五ヶ野を調べた。山南町でも一番西北の部分に当る杉の植林地帯であったがピナンカズラが割合あることにまづ気がつき本種がいるのではないかと7月2回、9月1回と可成り詳しく調べて見たがとうとう見つからなかった。

9月13日他の目的のため同地を訪れた。当日は現地到着時点位から雨になり。雨の中をもしやとピナンカズラを見て廻った所午前11時頃ピナンカズラのそばにあるミカエリソウ(シソ科)葉上にいる1頭を同行の蜂谷幸雄氏がみつけやはりこの地にいると喜んだ次第である。他にいないかと詳しく見たがとうとう見られなかった。雨の降りしきる中2人してカメラでまづ撮影をとやってみたがストロボも持って行っていなかったし三脚も無く手持ちで接写してスロースピードのシャッターもきれず薄暗い状況の中苦心して撮ったものであるがまづまづの出来であった。

とにかく山南町は割合と記録があるのでもっと調べたら産地が見つかるような気がする。此処は多可郡黒田庄にも近くこの地にも本種がいることからこの付近一帯に分布しているのかもしれない。

クロオビツツハムシ神戸市内に産す

(兵 庫 県 甲 虫 相 資 料 ・ 2 5 7)

高 橋 寿 郎

クロオビツツハムシ *Physomaragdna nigrifrons* (Hope) は兵庫県下での記録は大変少く筆者は本誌 Vol. 16, No.2 にて相生市三濃山、龍野市神岡町、飾磨郡夢前町我孫子の3ヶ所が知られているだけであるむね報告しておいた。いわゆる真夏のハムシであり猛暑の中での調査をやっていないものだからその後の記録も見られないし新しい産地の報告も無いようである。1990年7月26日蜂谷幸雄氏は神戸市須磨区多井畑のススキの葉上から1頭を採集された(標本筆者保管)。このあたりにもいると云うことは可成り広く県下の海岸線ぞいには分布している種ではないかと思うのだが何分にも調査が思うように出来ていない。注意して頂きたいハムシである。

(訂正) 本誌Vol. 17, No.2 に記録したアラメクビボソトビハムシ *Pseudliprus nigrinus* (Jacoby) はその後大野正男教授から注意を受け再度調べて見た所これ等はクビボソトビハムシ *P. hirtus* (Baly) の全体黒色のものであったので此処に訂正させて頂く。

県関係機関誌・連絡誌

(1 9 9 0 ・ X — 1 9 9 1 ・ III)

； 混蟲ずかん (但馬むしの会連絡誌)

No.26 (1990・Ⅸ)。No.27 (1990・ⅩⅡ)。No.28 (1991・Ⅱ)。

の せ (大阪昆虫同好会連絡誌)

Vol. 19, No.9, 10, 11, 12 (1990・Ⅸ～ⅩⅡ)。Vol. 20, No.1 (1991・Ⅰ)。

Crude (大阪昆虫同好会々誌)

No.34 (1990・ⅩⅡ)。

自然とともに (県環境管理課・自然保護係)

No.12 (1990・X I)。No.13 (1991・II)。

n/k通信 (ネイチャーアソシエーション)

No.07 (1990・X II)。

交換誌

蝶類年鑑1990。蝶研出版 (1991・III)

るりぼし15。水戸昆虫研究会、1990 (1991・III)

編集後記

- 本年も暖かい冬の様でした (2月下旬強い寒気団の来襲はありましたが)。また昨年のような猛暑の夏になるのでしょうか。本誌がお手許にとく頃が虫にとって一番面白い時期になっている様に思います。御活躍を祈ります。
- Vol. 19, No.1 やっと出来てホットしています。今号も貴重な記録の投稿を頂き有難う御座いました。結構まだ身近の所にも珍しい虫、初めて出会う虫がいるようです。だから調べる楽しみがあるのだと思います。多少にかかわりませず記録の御投稿御願ひ致します。
- 次号Vol. 19, No.2 は11月中にお手許にとどけられるよう発行したいと考えています。 (T)

きべりはむし 第19巻第1号

1991年5月25日発行

発行：兵庫昆虫同好会

〒652 神戸市兵庫区氷室町1丁目44 高橋寿郎方

振替 神戸7-26646

印刷：(株) 文 尚 堂

〒652 神戸市兵庫区下沢通3丁目4-11
